

# 平成26年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業



第1回全国研修会(9月開催)の検討を行う

平成26年11月14日～16日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて『平成26年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業〔主催＝(公財)日本武道館・(公財)日本相撲連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省〕〕が実施された。

今回は、同年9月に開催された『第1回全国相撲指導者研修会』の総括と今後の課題克服に向けた、検討協議を中心に行った。

## ■1日目(11月14日)



桑森研究者

開講式では桑森真介研究者が「9月の全国相撲指導者研修会が無事成功したと確信している。今後はより多くの中学校で相撲を採択していただけるようにするための普及活動が最大の課題である。また

同時に武道授業がどういったものかを考える時期でもある。今回の研究事業ではじっくりその点についても検討していきたい」と述べた。



三藤理事・事務局長

続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「9月に実施した全国指導者研修会の報告書が出来上がった。素晴らしい内容・資料となっている。今後は教育としての相撲をどの

ように指導し、どう生徒を育てるかが重要になってくる。競技としての相撲とは線引きをして、

相撲の持ち味を生かし、教育に特化した指導法を検討してほしい」と主催者挨拶を行った。

開会式後記念撮影をはさみ早速、検討協議に入った。

上村研究者は本年10月31日に実施された長野県福島中学校の研究授業について紹介した。

「この研究事業には長野県内の100名を超える教員が参加した。参加者から『相撲は良い。授業で出来そう』など良い意見を聞くことができた。またマット土俵に興味を示す参加者が多かった」と相撲授業に対する県内教員の感触が良かったことを報告した。

廣瀬研究者は現在の勤務校での実践例を紹介した。「私自身相撲経験はないが、一人で授業を行っている。最初の印象ではマイナスイメージが強かったが、授業を進めていく中で相撲の魅力に気づく生徒が出てきた。また、生徒から日常生活で相撲の話題が出るようになり、他の教科の先生も授業の見学に来てくれ、今年度学年別の相撲大会を開催できるまでになった」と学校全体に相撲の良いイメージを伝えることができたと報告があった。



校庭での相撲授業を紹介

## ■2日目 (11月15日)

この日は来年度の『第2回全国相撲指導者研修会』の日程・講義内容と参加者募集についての検討がなされた。現場では相撲未経験者の教員がどう授業を組み立てていくか悩んでいる状況がある。

大前提にあるのは安全指導である。

入倉研究者から実体験をもとに「相撲は簡易試合がすぐに出来てしまう。ラグビー出身の自分でも1時間目から試合までもっていった。しかし、それが授業と言えるのか疑問だった。現在では経験者の先生からアドバイスをもらいながら勉強している。そういった意味でも第1回の研修会報告書は貴重な資料となる。出来るだけ広く相撲を知ってもらうことが重要だと思う」と現在の心境を話した。

研究者の共通認識の中には「指導方法の一つではない」という考えがある。「押し」、「寄り」の指導順もどちらを先に指導するかでなく、前に出るためにどうするかを重視して指導することが重要である。生徒自身が気付き、考え、工夫する余地を残すことで相撲に対する興味・関心を持たせる。そのためにも他の教員とお互いの指導経験を共有し、異動しても相撲授業が取り組める環境を作っていくことが必要である。

今後の課題として以下のようなことが挙げられた。

- ①実践例報告を提示し、相撲未経験でも指導出来ることをアピールする。
- ②女子が相撲をしている映像資料 (DVD) を作製する。
- ③現在の授業実施校のリストを作成する。
- ④全国相撲指導者研修会を広く告知する。

## ■3日目 (11月16日)



最終日は同日研修センターにて開催されていた「第2回全国合気道指導者研修会」の模擬授業を見学した。見学終了後の意見交換会では、競技としての相撲指導と教育としての授業における相撲指導、さらには合気道の指導法と相撲の指導法の共通点と違いは何かという比較検討をしながら、活発な意見交換が行われた。堀内

研究者から「合気道はお互いの気を合わせながら理詰めで形を完成させていくもの」に思えた。相撲とはまた違った良さがある。非常に勉強になった。」また、桑森研究者からは「合気道、相撲という種目の垣根を越えた武道に共通するのは何かを、武道の良さとは何かを追及する。今後は相撲のみならず他の武道種目との共通点・違いを見つけ指導法に取り入れていきたい」と述べた。

閉講式では安井研究者から「第1回ということを手探りで研修会だった分、反省点と今後の課題が見えた。また、合気道の模擬授業を見学できたことは今後の指導法への良い刺激となった。今回は非常に良い研究協議が行えた。今後ますます努力していきたいと思う」と総括し、研究事業を締めくくり、3日間の全日程を終えた。

今回初の試みとなった他の武道種目の指導法を見学することで指導法の幅が広がったように思える。



### ◇研究者

安井 和男 (日本相撲連盟 常務理事)  
桑森 真介 (日本相撲連盟 医科学副委員長)  
満留 久摩 (日本相撲連盟 評議委員)  
安藤 均 (長野県福島小学校 教頭)  
堀内 弥 (山梨県明見中学校 教諭)  
松浦 麻乃 (静岡県体育協会 事務職員)  
村田 安啓 (成城高校 事務職員)  
上村 裕一 (長野県福島中学校 教諭)  
入倉 裕司 (山梨県忍野村立忍野中学校 教諭)  
廣瀬 理奈 (山梨県下吉田中学校 教諭)

### ◇連盟事務局

吉村 登 (日本相撲連盟 事務長)

### ◇日本武道館事務局

吉川 英夫 (振興部長)  
石井 政利 (振興部振興課 主任) (敬称略・順不同)